

「最善解」生み出す力を

NIEアドバイザーが講演

日本新聞協会NIEアドバイザーを務める大阪市開平小の中島順子教諭がこのほど、県NIE教育研究会の全体会に招かれて講演した。中島教諭は、新学習指導要領が求める力の育成にも新聞が大きな役割を果たすと強調した。

「教科書が手軽で求めやすい『定食』なら、新聞はニンジンや大根といった『素材』そのもの。先生の腕次第でどのように調理できる」。教科書と違って最新のデータが得られ、い

主体的学びで大きな役割



「学校内にニュースについて話し合うコミュニティをつくってほしい」と話す中島教諭＝2月27日、福井市の県教育センター

ろいろな考え方や国内外の現実社会を知ることができると利点を説明した。新聞がどういったものか

を子どもたちに知ってもらいたいという思いでNIE実践を続けてきたという中島教諭。「社会の多くのことはインターネットで調べられるが、新聞社がなくなったら、検索サイトにも情

報は入ってこない。きちんと取材し、世に出しているかどうか判断された情報かどうかが判断された情報の価値を知ってほしい」と力を込めた。一方、新聞に書いてあることをうのみにするのでなく、複数紙を読み比べ、自分の考えを持たせることが大事だとした。

次期学習指導要領では、児童生徒が主体的に学ぶ「アクティブ・ラーニング」の視点が重視される。中島教諭は、先生が教え役、子どもが学び役という「一方通行」の授業ではなく、新聞に書かれていることを先生と子どもと一緒に考え、

調べる実践を通し、「最善解」を生み出す力を付けてほしいと呼びかけた。

経済協力開発機構(OECD)による「学習到達度調査(PISA)」で毎回トップクラスのフィンランドをはじめ、教育力に定評がある国の共通点は、新聞を活用した授業が行われていることだと説明。「NIEに周囲の理解がなく、自身の狭い思いをすることがあるかもしれないが『将来社会に出て行く子どもたちを育てるためNIEをやっています』と堂々と発信してほしい」とエールを送った。

(宇野和宏)